



# 体験を通して「災害想像能力」と「対応力」を身につける ～都立高校での「防災学習」プログラム

## 災害救援ボランティア推進委員会 ～都立千早高校「避難所体験学習」

災害救援ボランティア推進委員会(以下「災ボラ推進委員会」)は、災害救援ボランティアリーダーの養成や、リーダーによる地域ネットワークづくりを目的として設置された団体です。平成7年から養成講座を実施し、基礎講座を終了した6000名を超えるリーダーが全国で活動しています。今回は、災ボラ推進委員会が都立高校教育支援コーディネーターとして支援した都立千早高校の「避難所体験学習」について紹介します。

### 1 事前学習

今回の避難所体験学習の目的は、大震災時の被害の実際を知り、自分はどういう行動をとるべきなのかを考え、行動するための知識・技術を身につけることにあります。千早高校の教科「奉仕」の授業を年間を通してコーディネートをしている豊島区社会福祉協議会とともに、高校や地域との打合せを何回か行ない、アイデアを出し合いながらプログラムの流れを作成しました。

教員を対象とした事前研修では、今回の避難所体験学習の目的、震災時の被害状況の実際、当日の内容と進行等について、災ボラ推進委員会事務局の宮崎さんに説明していただき、実際の災害時にどのように行動するか考える時間も持ちました。

生徒対象の事前学習では、防災教材「ビジュアル版 幸せ運ぼう」に収録されている阪神・淡路大震災時のニュース映像や写真を見ながら、災害被害の実際と避難所の役割について学びました。横倒しになった高速道路や炎に包まれる街のニュース映像を見て、平成7年に起きた阪神・淡路大震災についてほとんど知らない生徒たちから驚きの声があがりました。

### 2 避難所体験学習

会場となる体育館には、6つのコーナーを設置し、クラスごとに全コーナーを25分ずつ体験していきます。各コーナーでは、協力団体の方に指導していただき、立教大学、明治大学などの大学生ボランティアも指導をサポートしました。

#### ●就寝時プライバシー確保体験

避難所でのようにプライバシーを確保して就寝できるか、毛布とダンボールを使って就寝場所づくりを体験。  
〈指導：豊島区防災課〉



#### ●停電による暗闇での避難体験

舞台上を暗幕で暗闇にし、ガラス片に見えるペットボトルを切ったものを倒れた机・いす等の間に置く。各グループ1本の懐中電灯を持って安全に避難する。  
〈指導：災ボラ推進委員会大学生ボランティア〉

#### ●仮設トイレ設置体験

トイレが使えなくなる状況に対応するための仮設トイレについて説明を受け、対処方法の実際や、災害時の区への対応等について学ぶ。  
〈指導：豊島区防災課〉



#### ●災害時要援護者への配慮

高齢者疑似体験セットのゴーグル・ヘッドフォン等を使い、視覚・聴覚の能力が低下した状態での避難者名簿記入や介助を体験。  
〈指導：豊島区社会福祉協議会〉



#### ●非常食体験

食欲が低下する非常時でも美味しく食べられるように工夫された非常食について知り、実際に食べてみる。アルファ米の非常食づくりも体験。  
〈指導：豊島区防災課〉

#### ●負傷者への対応

互いに負傷者役となって担架・徒手による搬送を体験。搬送される側を体験することで、安全な搬送方法を理解する。  
〈指導：池袋消防署〉

### 3 事後学習

体験の翌日、「目黒巻」を使って事後学習を実施しました。「目黒巻」とは、平成16年に東京大学目黒研究室で考案された災害状況のイメージトレーニングツールです。災害発生の数分後、数時間後、数日後に自分がどのような状況になっているかを想定して書いていきます(詳細は下記「目黒巻」HPを参照)。今回は東京都福祉保健局発行の冊子に掲載されている目黒巻の簡易版ワークシートを使用しました。学校の授業中に地震が発生したという設定で行いましたが、これまでに学習してきた生徒たちは、「伝言ダイヤルで家族と連絡をとる」「怪我した友人を助ける」「体育館では寒く床が固いので寝られない」「体育館に入りきれない人たちのために教室を片付ける」など、具体的に様々な状況を想定して書いていました。

#### 災害救援ボランティア推進委員会の宮崎賢哉さんにお話を伺いました

井上ひさしさんの著書「握手」の登場人物、ルロイ修道士はこんな言葉を教えてくれます。「困難は分割せよ」。あせってはなりません。問題を細かく割って、一つ一つ地道に片付けていくのです。」大地震のような困難が相手では準備(=防災)をしても無駄じゃないか、と思えてしまいます。ですが、大きな困難も小さなことや身近なことの積み重ねが解決への糸口です。困難から逃げず受け止め考える力、災害を想像し対応する力は生徒さん、先生方の中にあります。体験学習や目黒巻で、そのことに気付いていただけたのではと思っています。

災害救援ボランティア推進委員会 電話 03-3584-4085 アドレス <http://www.saigai.or.jp/>

#### 今回の防災学習で使用した資料

- 目黒巻 簡易版ワークシート「地震がくる前に子どものためにできること」11～16ページ 東京都福祉保健局 HP [http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/shussan/nyuyoji/saitai\\_pamphlet/index.html](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/shussan/nyuyoji/saitai_pamphlet/index.html)
- 目黒巻 <http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/meguromaki/meguromaki.html>

#### 参考HP

- 災害救援ボランティア推進委員会 防災ミニ講座「防災教育にチャレンジしてみませんか?」 <http://www.saigai.or.jp/gakushuu/kihon.html>
- 防災教育チャレンジプラン 防災教育事例集 <http://www.bosai-study.net/search/index.php>

## 他にも都立高校で行なわれた授業について紹介します

### 都立片倉高校「災害救助活動」

- コーディネート団体 八王子市民活動支援センター
- 協力団体・機関 片倉台自治会、八王子市生活安全部防災課、八王子消防署北野出張所、創価大学宮崎ゼミナール、八王子・学生の子ども応援団



片倉高校では「災害救助活動」として、①自治会が行っている防災の取組、②消防署によるAED訓練、③アルファ米の炊き出しと試食、④八王子市防災課による防災講座、の4つの内容を、2回の授業で7クラスが交替で体験しました。自治会の方から地域住民として取り組んでいる防災対策について伺い、大学生と一緒に地域の公園に出かけて自治会内に設置されている防災倉庫を確認しました。アルファ米の炊き出し体験では、赤十字奉仕団片倉台分団の方にもご協力いただくなど、多くの地域の方とふれあひながら、日ごろからの備えや住民同士のつながり、そして体験することの大切さを学ぶ機会となりました。

### 都立砂川高校(定時制課程)「トリアージ訓練」「救出訓練」

- コーディネート団体 市民活動センターたちかわ
- 協力団体 特定非営利活動法人危機管理対策機構、防災活動に取り組む地域住民の方々



専門家の方に、アメリカのCERT(地域社会における緊急対応チーム)訓練プログラムの一環である「トリアージ訓練」と「救出訓練」について指導していただきました。

教室でこれからの体験内容について説明を受けた後、体験に入ります。トリアージ訓練では、リアルに傷を再現するキットを装着した地域の方が倒れている教室で、けがの状況を見ながら治療の優先順位を決定していきます。救出訓練は、瓦礫の下敷きになった人形を、「てこ」の原理を応用して瓦礫を少しずつ持ち上げ、救出するものです。瓦礫が崩れないように井桁を組んで安定した支えをつくり、救出者の安全を確保しながら瓦礫を少しずつ四方から持ち上げていきます。生徒は互いに協力しながら、真剣に取り組んでいました。

